

詩集「神無月」

【その壱 神無月】

10月の心地よい風

木々はそろそろ葉をちらす

小さな小さなムクドリは

そんな風の便りを運ぶ

昔はノッポだった電柱も

今はチビ

カラスはそんな電柱で

ちいさくちいさく鳴いている…

【その弐 川柳:母校】

「窓際の 眺める先に 今昔」

小学校からこちらを眺めている子供がいる。道路を隔てて僕と目が合った。

転校というものを体験しても、当時の思い出は少しも色あせない。

いろいろなことをやったなぁ…焼き芋大会、運動会、遠足…

母校の変わらない姿がそこにはある。

きっと、あの子も強くなるんだ。

そんなここには今がある。

そんなここには昔がある…

【その参 川柳:秒針】

「時刻む 秒針追って また一秒」

同じでいて違う「1秒」、確かにそこには違う過去がある。

しかし、無周期な音を聞き続けていると、そこにはあるべき過去はない。

1秒は、始まりであり、終わりである。

過去は現在一時にかき消され、同じく未来が過去を消す。

結局、時計というのは何なのだろう。

それは、永久に今だけを告げる道具なのだ。

すぐ後に訪れるはずの未来…

気づくとそこはもう、過去なのである。

そんな未来を、今の自分は見守っている…

【その五 師】

悟った。

少し強くなった。

人間の生きる目的…

人に勇気を与えることなんだ。

だから僕は…

冒険する。

それには師がいる。

だけど…

「師は師であれ」

そう思う。

師は越えるためにあるんじゃない。

冒険の道しるべなんだ。

終わりのない冒険を続ける。

終わりが無いから冒険をするんだ。

師はいつだって師なんだ。

冒険をする心の支え…それが

師なんだ。

【その六 夢】

夢は持つことに意味がある。

達成することに真に意味はない。

夢を達成する過程で身につけた、得たもの

それに本当の価値がある。

だから、未練がなくなれば…

夢をかなえればいい。

簡単な夢はよろしくない。

振り返るのはきっと…

果たすべき夢なんだ。

【その七 私】

当たり前の日々を送る毎日…

同じ電車に乗り込む…

同じ弁当を食べて…

帰る。

ふと…

今の自分がいつの自分なのか。

そう感じる。

電車の騒音でもかき消されない。

今は今で…

昔は昔。

本当に区別はつくのだろうか。

だが、少なくとも私には、

時計がある。

時計を見ると…

いつもの私に戻るのだ。

【その八 時計】

研ぎ澄まされた聴覚は

一厘の乱れも許さない。

壁かけた時計…

それは、正確さの象徴である一秒を刻む。

最小単位こそ…

1秒。

最大単位こそ…

1秒。

だが、今日は違う。

同じでいて…

同じでない1秒。

たったの1秒…

集中するほど、

虚無は過ぎ去っていく。

時計の果たす意味、それは…

確かにそこに過去があったことの

証明ではなからうか…



## 【その九 タイムカプセル】

思い出とは…

3番目に大事なもの。

1番は自分の命。

2番は他人への思いやりだ。

だから思い出は…

他人と自分の架け橋。

他人と自分との絆…そして

価値だ。

タイムカプセルはそんな、

大切な思い出をしまう場所。

いつか出会うその日まで…

大事に守ってくれる。

また会えれば…

それは、平和の象徴なんだ。

思い出は…

青春を生きた僕らの時代のもの。

でも…

その証を守れるのは…

今を生きる僕らなんだ。

僕らがやらねば、

思い出は死ぬ。

残すのは僕らの宿題、

未来を生きる僕らの…

心の財産なんだ。

懐かしいだけじゃない。

支えあう心…絆…

成長を陰で支えてくれるんだ。